



— 評価技術を基盤とした創薬のための製剤設計戦略 —



専門家による講義と実務指導を通じて、最適な原薬結晶形態の選択のノウハウから最新の物性評価技術を用いた製剤設計への応用までの知識と技能習得を行いました。

講義

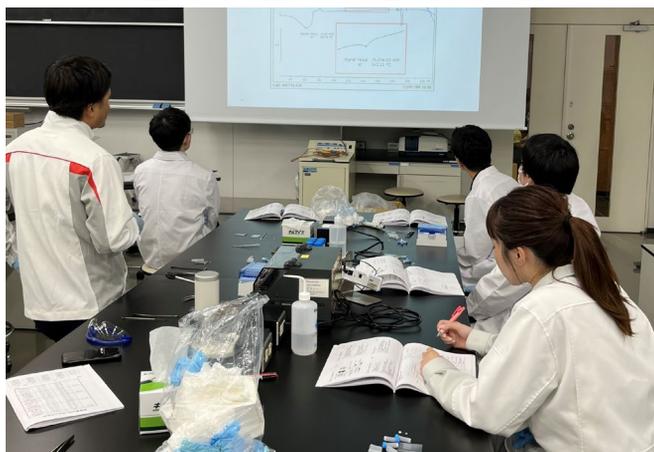
1. 分光学を中心とした物性評価法総論（国際医療福祉大・米持先生）
2. 製剤設計を見据えた物性研究総論（武田薬品工業・山本先生）
3. 経口吸収性を考慮した原薬形態選定・製剤設計（大塚製薬・我藤先生）
4. 製剤の溶出特性に影響を与える原薬物性（沢井製薬・橋塚先生）



実習

4グループに分かれ4つの実習をローテーションし、技術を習得しました。

A. 製剤設計のための最先端の物性データ取得と解釈
西村先生、新井先生、山本先生（武田薬品工業）



B. 高分子固体分散体制剤の合理的設計のための評価法
山崎先生、山口先生、羽田先生（アステラス製薬）



C. 結晶化の基礎と塩・共結晶・多形スクリーニングへの応用
請川先生、前野先生、杉田先生、高田先生（中外製薬）



D. 予測モデルによる原薬・製剤安定性の短期評価法
篠崎先生、田村先生（第一三共）



企業プレゼンテーション

協賛企業11社から最新の分析機器の紹介があり、展示ブースでは空き時間を有効活用して活発な情報交換が行われました。